

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	岡崎市	地域再生計画名	「ものづくり愛知を支え、より住みやすく安全で活力あるまちづくり計画」
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	岡崎市土木建設部長 中田 利隆		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況	中間目標値の実現状況に関する評価	
		基準年度		年度	中間実績	基準年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	交通事故死傷者数の減少	2,091	R元	2,071	R4	1,245	1,987	R6	○	指標に影響を与える歩道のバリアフリー化事業において、一部事業に後れを生じていることから整備量や事業費が計画どおりに進んでいないが、着実に整備を進めていることにより効果が現れている。 新型コロナウイルスの影響も終息しつつある中で、今まで抑圧されていた新規創業に対する意欲が高まったと推測されることから、設定した目標を達成した。 事業進捗が図られる路線を優先的に整備を行うなどの対策を講じた結果、設定した目標を達した。 新型コロナウイルスの影響も終息しつつある中で観光に対する機運が高まったことや感染リスクの少ない野外施設が多いことから、設定した目標を達成したと思われる。さらに令和4年度から放送されている大河ドラマ「どうする家康」の効果や乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画に基づくまちの活性化プロジェクトの成果が現れた。 林道の整備は計画的に進められているがその効果を発揮するまでには至っていない。関連事業として木の駅プロジェクトなどの取り組みを継続的に行っているが、世界的なウッドショックや新型コロナウイルス感染症などの影響により、搬出が抑制されてしまったため、設定した目標には届かなかった。
	指標2	創業者数の増加	846	R元	1,356	R4	1,439	1,696	R6	○	
	指標3	耐震性の問題のある橋梁数の減少	7	R元	4	R4	4	0	R6	○	
	指標4	主要観光拠点等訪問者数の増加	95	R元	98	R4	106	100	R6	○	
	指標5	森林素材生産量の増加	3,726	R元	5,000	R4	4,642	5,600	R6	×	
②事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
		計画	中間年度（R4）	最終実績見込み							
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	10,300m	4,541m	10,300m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約80%と多少の遅れが伺えるが、路線の優先順位を勘案して順次事業進捗を図っていく。						
	林道整備事業（整備延長）	1,400m	780m	1,400m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗は、計画どおり進んでいることから、引き続き事業進捗を図っていく。						
その他の事業											
計画外で独自に実施した事業	木の駅プロジェクト	放置状態の木材の搬出を促進する		平成27年度より、岡崎市額田地区において放置状態にある木材を地域の山林所有者に搬出してもらい、その対価として地域通貨を発行し、地域の商店等で利用させ、地域経済の活性化を図る取り組みを進めている。							
	岡崎市産材住宅建設事業費補助	岡崎市産材の利用を促進する		地元産材を積極的な利用を推進するため、岡崎市産材を利用した住居専用の戸建住宅の建築に対して補助を行い、市内の森林整備の推進や林業、木材業、建築業などの地域産業活性化を図った。							
	高性能林業機械の導入	高性能林業機械の導入により、作業の効率化、低コスト化を図る。		岡崎市森林組合が高性能林業機械を導入することで作業の効率化、低コスト化を図ることが可能となる。それにより、林業従事者の負担軽減が図られ、作業環境の向上が図られた。							
	乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画	まちの活性化を図る		リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用して、パブリックマインドを持つ民間を引き込む公民連携プロジェクトを実施することにより、その回遊性を実現させ、波及効果として、まちの活性化を図った。							
	作業道開設・改良事業費補助	森林資材の育成・利用等を図る		森林整備に必要な路網（作業道）整備に対して補助を行うことにより、森林資源の育成・利用及び森林の持つ公益的機能の向上を図った。							
③評価方法	評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。										
④中間評価の公表方法	岡崎市のホームページに掲載										
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に行うことにより、地域間のネットワークを強化することで、交通事故死傷者数の減少、創業者数の増加、主要観光拠点等訪問者数の増加及び森林素材生産量の増加を図ることを目的としている。令和2年度から本計画に基づき各路線の整備を行った結果、交通事故死傷者数は減少、創業者数は増加及び主要観光拠点等訪問者数については増加しており、一定の効果が現れていることが伺える。さらに耐震性に問題のある橋梁の耐震化事業も計画どおりの進捗が図られている。ただし、森林素材生産量を増加させるために林道の整備を計画的に進めているが、その効果を発揮するまでには至っていないことから別に行う林業振興施策と連携して投資効果を高める必要がある。										
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況				有りの場合その具体的内容						
	地域再生計画の見直し（有・無）										
	令和〇年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円										
⑦今後の方針等に対する対応	現状では、各指標において中間評価で設定した基準を5項目中4項目で満たしていることから、引き続き各事業における最終目標値の基準も満たすよう計画的に事業を進めていく。ただし、森林素材生産量においては、その効果が発揮されていないことから、指標目標値達成に向けて別に行う林業振興施策と連携して投資効果を高める必要がある。 指標1に関して、指標に影響を与える歩道のバリアフリー化事業において、一部事業に後れを生じていることから整備量や事業費が計画どおりに進んでいないが、着実に整備を進めていることにより効果が現れている。 指標2に関して、新型コロナウイルスの影響も終息しつつある中で、今まで抑圧されていた新規創業に対する意欲が高まったと推測されることから、設定した目標を達成した。 指標3に関して、事業進捗が図られる路線を優先的に整備を行うなどの対策を講じた結果、設定した目標を達した。 指標4に関して、新型コロナウイルスの影響も終息しつつある中で観光に対する機運が高まったことや感染リスクの少ない野外施設が多いことから、設定した目標を達成したと思われる。さらに令和4年度から放送されている大河ドラマ「どうする家康」の効果や乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画に基づくまちの活性化プロジェクトの成果が現れた。 指標5に関して、林道の整備は計画的に進められているがその効果を発揮するまでには至っていない。関連事業として木の駅プロジェクトなどの取り組みを継続的に行っているが、世界的なウッドショックや新型コロナウイルス感染症などの影響により、搬出が抑制されてしまったため、設定した目標には届かなかった。										